

2018年度報告書：図書館が保存している記憶資源の抽出

著者	宇陀 則彦, 鈴木 伸崇, 綿抜 豊昭
雑誌名	リサーチユニット「記憶資源」
ページ	1-31
発行年	2019-02-25
URL	http://hdl.handle.net/2241/00159884

2018年度報告書

図書館が保存している記憶資源の抽出

宇陀則彦

鈴木伸崇

綿抜豊昭

2019年2月25日

筑波大学

図書館情報メディア系

リサーチユニット「記憶資源」

図書館が保存している記憶資源の抽出

宇陀則彦・鈴木伸崇・綿抜豊昭

緒言

「暦」なるものは、はなはだ実務的なものでありながら、その一方ですこぶる文化的なものである。

たとえば、世界的な金融・経済などの分野で用いられる「暦」は実務的なものであり、独自性は排除される。将来はともかく、現在は、1582年にローマ教皇グレゴリウス13世が制定した太陽暦「グレゴリオ暦」、いわゆる西暦が用いられ、それがグローバルスタンダードである。

また、日本では、「旧暦」と称される「暦」のほかに、『日本書紀』に記された神武天皇即位の年を元年として定められた「皇紀」が用いられた時期があり、世界に目を向けるとコプト暦、イスラム暦など数十種類が用いられている。これらは「信仰」や「慣習」あるいは「文化」といったものと密接な関係がある。

たとえば日本でも中国でも公的な「暦」は西暦だが、日本の節分、中国の春節といった伝統行事は旧暦にしたがって催されるように、二つの「暦」は共存している。また2019年のカレンダーでは「亥」としかないが、2018年のカレンダーには「平成30年・戌（犬）年」と「元号」が併記されていた。

かつては「暦注」といって、毎日、その日の吉凶に関する諸事項等が記されるものが多かった。そのため冊子の形態で刊行されるものもあった。そうした吉凶等は、科学的には根拠のないこと、すなわち「迷信」とされ、今日では、記されたとしても「大安」とか「仏滅」といった「六曜」ととどまるものが多いが、多くの日本人の「生活の行動基準」の一つであったといって過言ではない。すなわち、かつて刊行された「暦」は、今の人とは異なる年月日・時間感覚の「記憶」を呼び覚ますツールといってよい。まさに「記憶資源」とするにふさわしい資料である。

その点に注目し、明治150年として各地でイベントが催され、平成のとじ目が近づいた2018年度に、図書館が保存している「暦」を取り上げ、「記憶資源」としての観点から、以下の試みをなすプロジェクトをたちあげた。

図書館が所蔵する記憶資源「暦」の利活用プロジェクト

- ① 学生の授業における利活用
- ② 「展示」に利活用
- ③ 展示を利用した講演会等の開催
- ④ 暦のデジタル化による、インターネット上の利活用

今回、上記のうち、①②を行ったのでその報告をする。

なお、③は年度末に開催予定、④はインターネット上のような利活用が有効かつ可能かについて検討中である。

目次

緒言	i
I 学生の授業に利活用	1
II 「展示」に利活用	2
資料 I 「暦」目録	6
II 発表会パワーポイント	8
III 展示図録	17

I 学生の授業に利活用

筑波大学知識情報・図書館学類に所属する3年次の学生は、3つある主専攻の内の1つに所属し、その専攻の卒業研究に必要な知識等を獲得するために「主専攻実習」を受講することが必須である。

今回、「情報資源経営主専攻」の「主専攻実習」において、綿抜の担当を希望した学生のうち、H班(綿抜2班)の学生9名が、「暦を読むー図書館資料の利活用の観点からー」というテーマで実習に望んだ。実習は次のように進められた。

- 1 先行研究の調査
- 2 本実習で行う研究内容の検討
- 3 「暦」の歴史の調査
- 4 筑波大学他の所蔵の「暦」の調査
- 5 「暦」の本に関する展示
- 6 研究発表

このうち「5「暦」の本に関する展示」については、次の「II「展示」に利活用」で述べる。

「6研究発表」の内容については、資料IIを参照されたい。

「1先行研究の調査」の結果をふまえて、「2本実習で行う研究」を

図書館資料の利活用を進めるためには、どのような活動をすればよいのかについて

は、先行研究が少なく、今回は「暦」を用いて事例研究を行う

とした。

各自が「暦」について理解するために、「暦」について、諸文献で調査し、「3「暦」の歴史」について理解を深めた。

「4筑波大学他の所蔵の「暦」の調査」では、公共図書館、大学図書館が所蔵する「暦」の調査をした。特に多く所蔵する筑波大学所蔵の目録を作成し、および展示用に綿抜研究室に所蔵される「暦」の目録を作成した。

このさいにまとめられたものは、資料Iにあげる。

Ⅱ 「展示」に活用

「5「暦」の本に関する展示」に関しては

- ①場所の確保
- ②展示品の選定
- ③展示解説の作成
- ④展示の設営
- ⑤展示の広報

を行った。

①場所の確保

筑波大学春日エリア メディアユニオン一階「図情図書館メディアミュージアム」を候補とし、そこを管理する筑波大学図情図書館との交渉からはじめた。



展示候補の「暦」に筑波大学図情図書館所蔵本が含まれるため、共催を願うことにした。共催願い・展示許可の書類「筑波大学附属図書館展示企画書」を作成、申請し、許可を得た。

②展示品の選定

展示許可を得てから、展示スペースを確認した。

筑波大学図情図書館所蔵の「おぼけ暦」を展示することをまず確定し、その後に綿抜研究室の所蔵品で「暦」の理解が深まるものを選定した。



④展示の設営

展示品を展示ケースに配置するとともに、図書館職員の方々の協力を得て、壁飾り等も作成した。



メディアミュージアムだけでなく、図書館職員の方々の協力を得て、図情図書館に「暦」に関連する図書を「ミニ展示コーナー」に展示した。



⑤展示の広報

図書館職員の方々の協力を得て、ポスターを作成し、メディアミュージアム、図情図書館に掲示した。
チラシも作成した。

⑥展示図録の作成

図録を作成した。図録は巻末にあげる。
図録の作成にあたっては、
時井真紀講師のご協力を得た。



資料 I 曆目録

[illegible]

事項	出版場所	著者	出版名	出版年	所在	資料タイプ	題記番号	資料ID	分類 (NDC)	備考欄
年中後援	大阪	吉田幸太郎	吉田幸太郎	1914.11	愛知県東郷	和装古書	449.81-Y86-1915	10003007476	—	お化け屋?
		藤田信澄	藤田信澄	1924	愛知県東郷	和装古書	449.81-N93-1925	10003007501	—	お化け屋?
商家・豪族	東京	大塚徳治郎	大塚徳治郎	1911.11	愛知県東郷	和装古書	449.81-O61-1912	10003007465	610 (商業)	国立国会図書館デジタルコレクションに掲載資料あり、どやら屋
商家目録	京橋	松田幸五郎	松田幸五郎	1909.11	愛知県東郷	和装古書	449.81-N93-1910	10003007459	610 (商業)	お化け屋
商家の家	京橋	松浦次郎	松浦次郎	1910.11	愛知県東郷	和装古書	449.81-M88-1911	10003007461	—	お化け屋
	明石	松浦次郎	松浦次郎	1908.11	愛知県東郷	和装古書	449.81-N93-1909	10003007453	610 (商業)	お化け屋
	京橋	中山助助	中山助助	1883.11	愛知県東郷	和装古書	449.81-N93-1884	10003007407	610 (商業)	お化け屋
	明石	杉本平太郎	杉本平太郎	1905.11	愛知県東郷	和装古書	449.81-N93-1906	10003007444	—	お化け屋
	京橋	山崎徳兵衛	山崎徳兵衛	1925	愛知県東郷	和装古書	449.81-N97-1926	10003007506	—	特に見つかからない
	京橋	後藤善吉	後藤善吉	1890.11	愛知県東郷	和装古書	449.81-N97-1891	10003007508	610 (商業)	特に見つかからない
	水引村 (春日崎)	原佐佐一高	原佐佐一高	1900.11	愛知県東郷	和装古書	449.81-N97-1901	10003007478	—	特に見つかからない
	金井町 (桑受郷)	桑田吉吉	桑田吉吉	1865.11	愛知県東郷	和装古書	449.81-N97-1906	10003007448	—	特に見つかからない
	東京	堀永平吉	堀永平吉	1923	愛知県東郷	和装古書	449.81-N97-1924	10003007503	—	特に見つかからない
	大坂	中村大七	中村大七	1881.11	愛知県東郷	和装古書	449.81-N97-1892	10003007402	—	表紙に「内務省御用」とあり
商家の家	京橋	米沢清次郎	米沢清次郎	1887	愛知県東郷	和装古書	449.81-Y84	10003007393	443 (純法 医学)	明治時代の書
	京橋	後藤善吉	後藤善吉	1901.11	愛知県東郷	和装古書	449.81-B18-1902	10003007429	—	「明治十九年十月十四日出版御用」「明治十九年十一月創成」とあり
	東京	松田幸五郎	松田幸五郎	1919	愛知県東郷	和装古書	449.81-H84-1920	10003007490	—	特に見つかからない
	大阪	山田佐兵衛	山田佐兵衛	1892.11	愛知県東郷	和装古書	449.81-Y19-1893	10003007405	—	特に見つかからない
	京橋	寺田清三郎	寺田清三郎	1898	愛知県東郷	和装古書	449.81-T643-1899	10003007423	148 (純法 医学)	国立国会図書館デジタルコレクションに掲載資料あり、どやら屋
	京橋	寺田清三郎	寺田清三郎	1901	愛知県東郷	和装古書	449.81-T643-1902	10003007430	148 (純法 医学)	国立国会図書館デジタルコレクションに掲載資料あり、お化け屋
	京橋	寺田清三郎	寺田清三郎	1902	愛知県東郷	和装古書	449.81-T643-1903	10003007433	148 (純法 医学)	国立国会図書館デジタルコレクションに掲載資料あり、お化け屋
	京橋	寺田清三郎	寺田清三郎	1903	愛知県東郷	和装古書	449.81-T643-1904	10003007436	148 (純法 医学)	国立国会図書館デジタルコレクションに掲載資料あり、お化け屋
	京橋	井上吉太郎	井上吉太郎	1894	愛知県東郷	和装古書	449.81-H92-1895	10003007411	148 (純法 医学)	国立国会図書館デジタルコレクションに掲載資料あり、お化け屋
	大津市 (浪速町)	井上吉太郎	井上吉太郎	1896	愛知県東郷	和装古書	449.81-H92-1897	10003007416	148 (純法 医学)	国立国会図書館デジタルコレクションに掲載資料あり、お化け屋
八幡市	中村大七	中村大七	1885.11	愛知県東郷	和装古書	449.81-H92-1886	10003007413	148 (純法 医学)	国立国会図書館デジタルコレクションに掲載資料あり、お化け屋	
商家の家	京橋	松田幸次郎	松田幸次郎	1888.11	愛知県東郷	和装古書	449.81-H92	10003007396	—	お化け屋
	大阪	好野中次郎	好野中次郎	1912.11	愛知県東郷	和装古書	449.81-M831-1913	10003007469	—	国立国会図書館デジタルコレクションに掲載資料あり、お化け屋
	京橋	木村栄海郎	木村栄海郎	1869	愛知県東郷	和装古書	449.81-H69	10003007391	1170 (純法)	明治14年の書
	東京	田川福太郎	田川福太郎	1914.11	愛知県東郷	和装古書	449.81-M831-1915	10003007474	—	ネット公開なし
	東京	山田中次郎	山田中次郎	1927.11	愛知県東郷	和装古書	449.81-M831-1928	10003007475	—	デジタルデータなし
	大阪	後藤善吉	後藤善吉	1916.11	愛知県東郷	和装古書	449.81-M831-1917	10003007483	—	ネット公開なし
	京橋	松田幸五郎	松田幸五郎	1929.11	愛知県東郷	和装古書	449.81-M831-1930	10003007513	—	デジタルデータなし
	京橋	三宅徳太郎	三宅徳太郎	1904.11	愛知県東郷	和装古書	449.81-M86-25	10003007442	449 (純法 医学)	デジタルデータなし
	京橋	宮崎八十八	宮崎八十八	1911	愛知県東郷	和装古書	449.81-M88	10003007468	—	デジタルデータなし
	勝山守四郎	勝山守四郎	勝山守四郎	1906.11	愛知県東郷	和装古書	449.81-M86-25	10003007448	443 (純法 医学)	シリーズ名: 古今重要書
津	勝山守四郎	勝山守四郎	1906.11	愛知県東郷	和装古書	449.81-M86-25	10003007448	443 (純法 医学)	シリーズ名: 古今重要書	

No.	出版元	出版者	題名	都道府県	目次	
1	神宮司廳		明治廿一年略本暦		暦、求年齢月数表	
2	神宮司廳		明治廿二年略本暦		暦、求年齢月数表	明治21年10月24日
3	神宮司廳	森田吉吉	明治廿三年略本暦		暦、求年齢月数表	明治22年10月25日
4	神宮司廳		明治廿四年略本暦		暦、求年齢月数表	明治23年10月25日
5	神宮司廳		明治廿五年略本暦		暦、求年齢月数表	明治24年10月24日
6	神宮司廳		明治廿六年略本暦		暦、求年齢月数表	明治25年10月25日
7	神宮司廳		明治廿七年略本暦		暦、求年齢月数表	奥付なし
8	神宮司廳		明治廿八年略本暦	大阪	暦、求年齢月数表	奥付なし
9	神宮司廳		明治廿九年略本暦		暦、求年齢月数表	明治27年11月1日
10	神宮司廳		明治三十年略本暦		暦、求年齢月数表	明治29年11月1日
11	神宮司廳		明治三十一年略本暦		暦、求年齢月数表	明治30年11月1日
12	神宮司廳		明治三十二年略本暦		暦、求年齢月数表	明治31年11月1日
13	神宮司廳		明治三十三年略本暦		暦、求年齢月数表	明治32年11月1日
14	神宮司廳		明治三十四年略本暦		暦、求年齢月数表	明治33年11月1日
15	神宮司廳		明治三十五年略本暦		暦、求年齢月数表	明治34年11月1日
16	神部署		明治三十六年略本暦		新嘉、暦、求年齢月数表	明治35年11月1日
17	神部署		明治三十七年略本暦		新嘉、暦、求年齢月数表	明治35年11月1日
18	神部署		明治三十八年略本暦		新嘉、暦、求年齢月数表	明治36
19	神部署		明治三十九年略本暦		新嘉	
20	神部署		明治四十年略本暦		新嘉	明治37
21	神部署		明治四十一年略本暦		新嘉	38
22	神部署		明治四十二年略本暦		新嘉	38
23	神部署		明治四十三年略本暦		新嘉	39
24	神部署		明治四十四年略本暦		新嘉	39
25	神部署		明治四十五年略本暦		暦	40
26	神部署		明治四十六年略本暦		新嘉、年齢早繰表	40
27	神部署		明治四十七年略本暦		新嘉	41
28	神部署		明治四十八年略本暦		新嘉	42
29	神部署		明治四十九年略本暦		新嘉	42
30	神部署		明治五十年略本暦	東京	新嘉	43
31	神部署		明治五十一年略本暦	東京	新嘉	44
32	神宮神部署		大正三年略本暦		新嘉	大正2年
33	神宮神部署		大正四年略本暦		新嘉	3
34	神宮神部署		大正五年略本暦		新嘉、たねまき季節表	4
35	神宮神部署		大正六年略本暦		新嘉、たねまき季節表	5
36	神宮神部署		大正七年略本暦		新嘉、たねまき季節表	6
37	神宮神部署		大正八年略本暦		たねまき季節表	7
38	神宮神部署		大正九年略本暦		たねまき季節表	8
39	神宮神部署		大正十年略本暦		たねまき季節表	9
40	神宮神部署		大正十一年略本暦		たねまき季節表	10
41	神宮神部署		大正十二年略本暦		最高、最低及降水の最大日量、霜雪の季節最近100年年代表、度量衡表、○	11
42	神宮神部署		大正十三年略本暦		上に同じ、雨量	
43	神宮神部署		大正十四年略本暦		上に同じ	13
44	神宮神部署		大正十五年略本暦		上に同じ	14
45	神宮神部署		大正十六年略本暦		上に同じ	15
46	神宮神部署		昭和三年略本暦		官國幣社例祭日、各地の気候、気温の最高、最低及降水の最大日量、霜雪の季節最近100年年代表、度量衡表、対照年号表、雨量	昭和2年
47	神宮神部署		昭和四年略本暦		上に同じ	3
48	神宮神部署		昭和五年略本暦		上に同じ	4
49	神宮神部署		昭和六年略本暦		上に同じ	5
50	神宮神部署		昭和七年略本暦		上に同じ	6
51	神宮神部署		昭和八年略本暦		上に同じ	7
52	神宮神部署		昭和九年略本暦		上に同じ	8
53	神宮神部署		昭和十年略本暦		上に同じ	9
54	神宮神部署		昭和十一年略本暦		上に同じ	10
55	神宮神部署		昭和十二年略本暦		上に同じ	11
56	神宮神部署		昭和十三年略本暦		上に同じ	12
57	神宮神部署		昭和十四年略本暦		上に同じ	13
58	神宮神部署		昭和十五年略本暦		各地の気候(平均気温、気温の最高、最低及降水の最大日量、霜雪の季節、最近100年年代表、雨量)、対照年号表、たねまき季節表	14
59	神宮神部署		昭和十六年略本暦		上に同じ	15
60	神宮神部署		昭和十七年略本暦		上に同じ	16
61	神宮神部署		昭和十八年略本暦		上に同じ	17
62	神宮神部署		昭和十九年略本暦		暦だけ	18
63	神宮神部署		昭和二十年略本暦		暦だけ	19
64	神宮神部署		昭和二十一年略本暦		暦だけ	20
65	神宮司庁		昭和二十五年神宮暦		最近百年年代表、年中行事、神様のまつり、節気・雑節および週休望	24
66	神宮司庁		昭和二十九年神宮暦		最近百年年代表、年中行事、神様のまつり、暦面主要事項の略説	28

サイズが少し大きくなる

II パワーポイント

<h1>暦を読む</h1> <p>ー図書館資料の利活用の観点からー</p> <p>H班（綿抜2班）</p> <p>1</p>	<h2>目次</h2> <ul style="list-style-type: none"> 1. 先行研究 2. 研究概要 3. 暦の概要 4. 筑波大学図書館の現状 5. 暦の本に関する展示 <ul style="list-style-type: none"> 5-1. 暦の本に関する調査 5-2. 展示「暦を読む」 6. おわりに <p>2</p>
<h2>1. 先行研究</h2> <p>千代田区立千代田図書館の貴重書コレクションの活用¹⁾</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタルアーカイブ ・講演会 ・資料の展示 <p>3</p>	<h2>2. 研究概要</h2> <p>図書館資料の利活用を進めるためには、どのような活動がすればよいのか。</p> <p>→先行研究が少ない。 「暦」という題材で事例研究を行った。</p> <p>4</p>
<h2>3. 暦の概要</h2> <ul style="list-style-type: none"> ・暦は中国から朝鮮半島を通じて日本へ。 ・飛鳥時代の推古12年（604）に日本最初の暦誕生。 <p>明治政府により、明治6年（1873）から、太陰太陽暦に替わり現在使われている太陽暦が採用された。</p> <p>太陰太陽暦は、1000年以上にわたり用いられてきた。人々の生活に根付いてきた文化の根底とも言える存在。</p> <p>5</p>	<h2>4. 筑波大学附属図書館の実情</h2> <p>6</p>

調査方法

- ・筑波大学蔵書検索OPACを用いた所蔵調査
- ・文献調査

7

検索結果

筑波大学蔵書検索OPACで検索

- 請求記号が449(NDCで天文学の時法・暦学)
- キーワードに「暦」を含む

表1 検索結果(1)

資料タイプ	ヒット数	暦と推定されるもの
和装古書	12	12
マイクロ資料	52	5
貴重	28	1
	92	18

8

検索結果

- 請求記号が449(NDCで天文学の時法・暦学)
- キーワードに「暦」を含まない
『農家便覧』、『九星早見』、『方位便覧』,
『五行全書』など
→「お化け暦」の可能性

表2 検索結果(2)

資料タイプ	ヒット数	暦と推定されるもの
和装古書	72	72

表3 NDCによる内訳

NDC	件数
548《暦法・星占》	11
579《神道》	2
449《時法・暦学》	7
915《貴重》	6
不明	46
	72

9

検索結果

暦と思われる90(18+72)件を分析
→図書館情報学図書館が大半を所蔵

表4 所蔵による内訳

所在	件数
図書館貴重	81
中央貴重	1
中央MF	5
中央和装	2
体芸	1
	90

10

考察：お化け暦

お化け暦（偽暦、擬暦、おぼけ、おぼけごよみ）
六曜や二十四節気が記載された、作者不詳にして神出鬼没の偽の暦

戦時中までの為政者にとって、統一された秩序のある暦を使用させることが民を統治するため重要
→暦は一部の公社や大学、政治部局などが統制されたものを専売

しかし、人々は自らの生活に根差した「偽暦」「擬暦」を、暦とは分らない形で出版しつづけてきた

11

考察：収集規則と図書館コレクション

収集規則を調べ、図書館情報学図書館の性質を明らかにしようと考えた

図書館職員によると

- ・収集規則（選書基準）は公開していない
- ・図情貴重書庫にある暦
 - 内容がバランスよく収集されていない
 - 図書館が購入したものではなく国の予算で研究のためのものとして購入した可能性が高い
 - 教員が大学を去った後、行き場のない資料を引き取り、そのまま図書館のコレクションに

12

まとめ

筑波大学附属図書館の暦の所蔵調査の結果、
・「お化け暦」
・研究等で購入された資料
が所蔵されていることが明らかになった。

コレクション構築の過程・内容の偏りから、これらの
コレクションの今後の利活用に課題がある
→授業での利用や資料の展示という方法が考えられる

13

5. 暦の本に関する展示

14

5-1. 暦の本に関する調査

15

対象となる暦の本

所蔵：綿抜研究室所蔵の暦の本114冊
年代：明治9年～昭和44年
主な種類：明治略本暦、高島易断、個人出版

※明治6年～昭和20年
・政府が刊行していた暦を本暦
・本暦を簡略化した小型の暦を略本暦

16

各暦の本の特徴

①略本暦（明治21年～昭和29年）

年代	出版元
明治21年～明治35年	神宮司庁
明治36年～大正2年	神部署
大正3年～昭和21年	神宮神部署
昭和22年～昭和29年	神宮司庁

※昭和21年までは東京天文台が編纂し、神宮が頒布。
第2次世界大戦後、暦は暦象年表に。

17

年代	内容
明治9年～大正4年	暦
大正5年～大正11年	暦+たねまき季節表
大正12年～昭和18年	暦+各地の気候、気温の最高、最低、及降水の最大日量、霜雪の季節最近
昭和19年～昭和21年	100年年代表、度量衡表
昭和25年～昭和29年	最近百年年代表、年中行事、神廟のまつり、節気・雑節および遡望

18

②高島易断（大正11年～昭和33年）

- ・易学を主軸とする占い団体。いくつもの支部に分かれている。
- ・天保3年から7代にわたり、現在まで続いている。
- ・暦の他、占い、種まき、運勢、天気予報、姓名占いが掲載されている。
- ・題名は「昭和十二年御重寶」「昭和十一年運勢暦」など年によって様々。

19

③個人出版（明治8年～昭和30年）

- ・出版元は寺院や神社がある。
- ・「明治四十二年農家便覧」「明治廿九年民家必用」など題名だけでは暦の本と分からないものばかり。
- ・東京だけでなく全国で出版されている。

20

考察

- ・太陽暦は「明治略本暦」が主流であった。
- ・暦は、当初は朝廷内で使われるだけであった。
→暦の需要が高まるにつれ、各地で暦の本が作られた。
- ・本暦・略本暦の販売には規制がかけられており、そのため個人出版の暦は非合法的な暦＝お化け暦として題名からは暦の本と分からないようになっていた。

→これらの暦の本を実際に展示してみよう！

21

5-2. 展示「暦を読む」

22

展示の概要

目次

- 展示テーマ
- ねらい
- 展示場所・展示期間
- 展示資料
- 共催
- 展示解説の例
- 展示の様子

23

展示テーマ

「暦を読む」

24

ねらい

- 平成30年（2018年）は明治元年（1868年）から満150年に当たる。明治期に起こった変化の一つとして、欧米化を目的とした改暦が挙げられる。綿抜研究室が所蔵する明治・大正・昭和の暦に関する資料を中心に展示し、明治期以降の生活文化を暦から読み取る。

25

展示場所・展示期間

展示場所

- メディアユニオン1F 図情図書館メディアミュージアム
- 図情図書館ミニ展示コーナー

展示期間

- 平成30年11月26日（月）～平成31年1月18日（金）

26

展示資料

メディアユニオン1F

- 明治略本暦、大正略本暦、昭和略本暦ほか綿抜研究室所蔵資料
- 図情図書館所蔵のお化け暦

図情図書館

- 図情図書館所蔵の暦の関連図書

27

図情図書館との共催

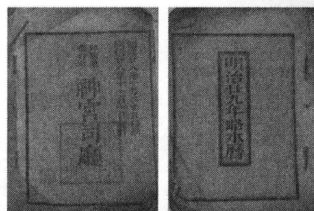
- 共催：筑波大学図書館情報学図書館
図情図書館の協力のもと、展示を企画
図情図書館にミニ展示コーナーを設置
展示の関連図書の紹介による閲覧促進
ビラ・ポスターによる展示企画の告知

28

展示解説の例

明治二十九年
略本暦

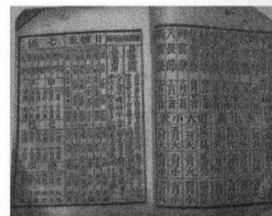
表紙・裏表紙



29

展示解説の例

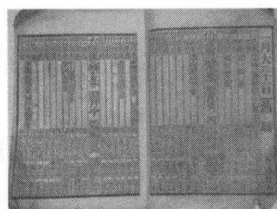
- ・神武天皇即位紀元
- ・宮中行事
- ・大小表
- ・東京日月食時刻
- ・日曜表
- ・七値
- ・六十干支



30

展示解説の例

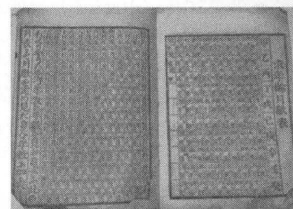
- ・1月の暦
- ※舊暦＝旧暦
- 太陰暦の暦と
- 月出・月入の記述



31

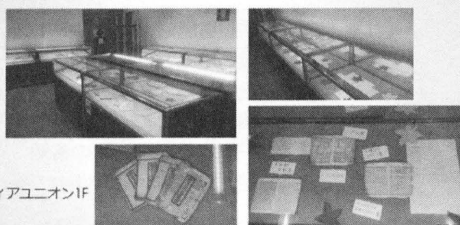
展示解説の例

- ・求年齢月数表



32

展示の様子



メディアユニオンIF

33

展示の様子



図情図書館 ミニ展示コーナー



34

6. おわりに

35

おわりに (1)

本研究の内容（まとめ）

- 暦を題材に、筑波大学附属図書館における所蔵資料の
実際を調査
- 所蔵コレクションを活用する試みとしての「展示」

今後参照される可能性の少ない図書館コレクションの存在を明らかにでき、かつそうしたコレクションを活用する方法の一つとして、具体的な例を示すことができた

36

おわりに (2)

今後の課題

- 参照されないコレクションについて、他の図書館の状況を調査し、問題を一般化する必要がある
- 今回行った展示について、実際の反響をまとめ、考察する
- 利活用の方法に更なる検討の余地がある

37

参考文献

- 1) 河合 郁子. 貴重書コレクションの活用とデジタルアーカイブ 千代田図書館企画部門の取り組み. デジタルアーカイブ学会誌. 2017, vol. 1, pre号, p. 25-28.
- 2) 荒川敏彦, 下村育世. 戦後日本における罫の再編(1): 「迷信的」罫注の禁止と復活. 千葉簡大紀要. 2014, 51(2), p. 37-58.
<https://ci.nii.ac.jp/ognavi?name=nels&lang=ja&type=pdf&id=ART0010251697&naid=110009758634>, (参照 2018-11-12).
- 3) 国立天文台. 罫Wiki <https://www.nao.ac.jp/>. (参照2018-11-13).
- 4) 岡田芳朗ほか. 罫を知る事典. 東京堂出版, 2006, 304p.

38

ご清聴ありがとうございました。

ISBN 978-4-924843-94-3

筑波大学図書館情報メディア系
リサーチユニット 「記憶資源」
筑波大学知識情報・図書館学類

企画展示図録

暦を読む



[展示期間] 前期 平成30年11月26日～平成31年1月18日
・ (一部展示替え)

後期 平成31年2月1日～平成31年3月25日

[展示場所] 筑波大学春日エリア メディアユニオン 1F
図情図書館メディアミュージアム

展示を見るにあたっての予備知識

時の流れを、一日を単位として年月などに区切り、数えるようにした体系や、それを記載したものを「こよみ」(暦)といいます。

某教員「部屋の片付けをしたいんだが」

某学生「ふつか、みっかでは無理ですね」

といった会話がなされることがあります。「ふつか、みっか」を漢字で表記しますと「二日、三日」です。すなわち「日」は「か」ともいいます。

また数えることを「読む」ともいいました。たとえば古くは『万葉集』に

春花の移ろふまでに相見ねば月日よみつつ妹待つらむそ(3982)

とあります。

ですから、日を数えることを「かよみ」といい、少々発音が変化して「こよみ」(暦)となったとされます。

「暦」というものは、実務的な一面と文化的な一面を持っています。

たとえば、世界的な金融・経済などの分野で用いられる「暦」は実務的なものです。将来は宇宙世紀(U.C)といったものが用いられるかもしれませんが、現在は、グローバルスタンダードな暦である西暦、1582年にローマ教皇グレゴリウス13世が制定した太陽暦「グレゴリオ暦」が用いられています。

また、日本では、「旧暦」といわれる「暦」のほかに、一時期、『日本書紀』に記された神武天皇即位の年を元年として定められた「皇紀」が用いられた時期がありますが、世界に目を向けるとコプト暦、イスラム暦など数十種類が用いられています。これらは信仰や慣習あるいは文化と密接な関係があります。たとえば日本でも中国でも公的な「暦」は西暦です。しかし、日本の「節分」、中国の「春節」といった伝統行事は、旧暦にしたがって行われますように、二つの「暦」は共存しています。

また「歳神(としがみ)」「歳徳神・としとくじん」といって、その歳における福德をつかさどる神様も信仰されました。この神様がお住まいの方角は縁起がよいとされ、恵方とされます。今は「恵方巻」でご存じの方も多いかと思います。



また「干支」も信じられていました。かつて「丙午（ひのえうま）」の年は、火災が多く、この年に生まれた女性は気性が強いという俗信もありました。また

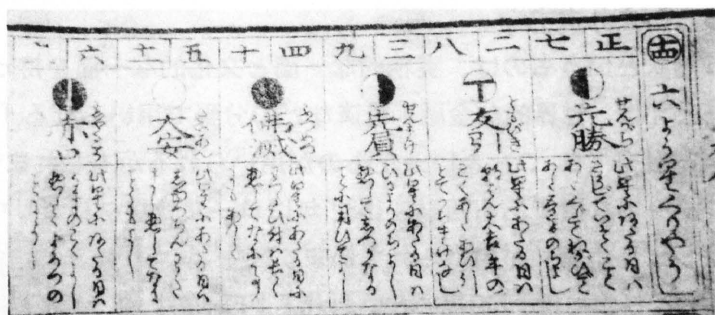
「何どし生まれですか？」
と聞かれて

「いぬ年です」
といったやりとりは、今でもお聞きになった方がいらっしゃるのではないのでしょうか。2018 年のカレンダーには「平成 30 年・戌（犬）年」、2018 年後半に製作された、2019 年のカレンダーでは「亥」と併記されたものが多くありました。



こうした信仰、慣習、俗信、吉凶等の情報は当時の人たちにとって重要な生活情報であったので、それを注として「暦」に併記しました。「暦注」といいます。またその情報を多く盛りこもうとすると冊子の形態をとらざるをえませんでした。

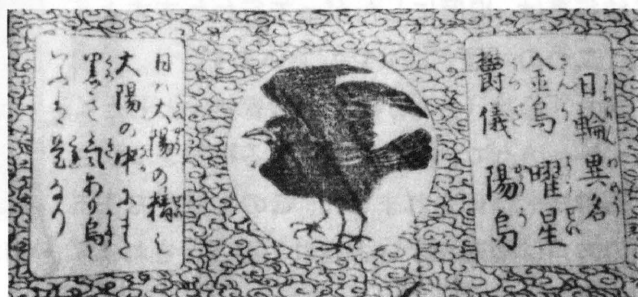
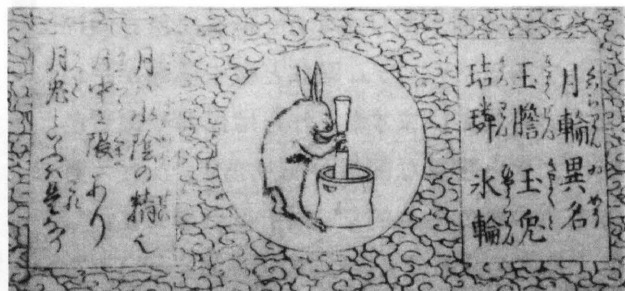
そうした吉凶は、科学的には根拠のないこと、すなわち「迷信」とされ、今日では、記されたとしても「大安」とか「仏滅」といった「六曜」とどまるものが多いですが、多くの日本人の「生活の行動基



準」の一つであったといってもよいと考えられます。すなわち、かつて刊行された「暦」は、今の人とは異なる年月日・時間感覚の「記憶」を呼び覚ますツールといってよいものです。まさに「記憶資源」とするにふさわしい資料です。

さて日本では明治になって大きな改暦が行われました。

「暦」は、月や太陽の運行と季節感が結びついて発達しました。日本では、江戸時代、月の満ち欠けによって季節等を知らせる太陰太陽暦を採用していましたが、幕末に日本と関係を持った諸外国は太陽暦を採用していました。当然、外交上不都合なことが生じていましたが、幕府は改暦しませんでした。



暦の問題は、明治政府にも引き継がれ、明治5年11月9日、改暦の詔書と太政官の布告が発表、翌12月3日をもって明治6年1月1日としました。以後、太陽暦が用いられています。

明治政府は、明治5年4月に頒暦商社を設立し、同社は明治15年まで暦版行の特権が承認されました。そして明治16年からは神宮司庁より官暦が頒布されました。

江戸時代の暦には、中段・下段に注記事項があるものがあります。「暦注」といわれるものです。代表的なものは「二十四気」で、農家の方々は「八十八夜」とか「二百十日」などをたいへん気に掛けています。また陰陽道や十干十二支による吉凶等も注記されました。これが迷信的なものとして、明治の官暦では削除されたのですが、庶民の生活に根付いていたためこれが付されたものが多く版行されました。

また明治16年、神宮司庁から官暦が頒布されるようになると、民間で暦を刊行されることは禁止されますが、一枚刷りの略暦は許可されていました。その一つが「引札暦」です。引札とは、商品の宣伝とか開店の告知などのため、配られる広告のちらしです。それに暦を加えると、一年中、どこかに貼ってもらえる可能性がでてきます。そうなれば宣伝効果が高いものとなります。

改暦のために混乱も生じました。

明治20年1月に発行された『あゆちのことは』は、明治になって、新しく行われたことなどを題として詠まれた和歌を編んだものですが、それに

大陽暦 浅野みたつ

満ち欠くる月にはかりて数へしは 暗かりしよの暦なりけり

*今は「太陽」と表記しますが、明治期のものは「大陽」とするものが多い。とあります。「よ」に「夜」と「世」を掛けており、体制側の人にとっては、江戸時代は、陰暦を用いた、暗い世の中だったという内容です。

しかし、改暦は文化に大きな混乱をもたらしました。例えば日本文芸を代表する俳句（俳諧）です。大正2年7月に発行された『俳諧新題林』には

明治五年十二月三日を以て翌年一月一日と大陽暦に改正ありし以来俳諧に用うべき季寄の混淆して大に惑ふ人ある

とし、また

大陽暦に因り二三四月を春、五六七月を夏、八九十月を秋、十一十二翌一月を冬として題を配置すと雖も、中には節分の如き現に二月なれば春の部に置も季は冬なり。八十八夜は現に五月なれば夏季とすべきか疑問なり。

と季節の問題にとどまらず、

祭典仏事の類ひは明治の世に至り神仏分離と成りしより、其定日の旧暦其俟修するあり。一ヶ月繰下しあり新暦に直せし有て同一ならざれば、該定日の確知せざるは旧の月を以て記す。（中略）大陽暦に定たる祭典は旧に拠る。

とあります。慣習となっていたものを改めることは、いかに難儀であったかが伝わってき

ます。

また明治 40 年 3 月に刊行された『俳諧白嶺集』第 24 巻には

我里は陽暦を用ひしも、他村は皆々陰暦を用ひをれば

めでたさに陰ひなたなし君かはる 但馬 天竺

とありますように、陰暦を用いる人たちも多くおりました。太陽の運行より、月の運行が、生業に影響する人たちです。旧暦と新暦と使い分けながら生活していたといつてよいでしょう。

また「暦」は信仰と深く結びつくものでした。今でも結婚式は「仏滅」に行われることは多くありません。「お日柄」の良し悪しがあったのです。

太陰太陽暦から太陽暦への換算をするにあたって基本図書である『日本暦日原点』を編んだ内田正男は、以下のように述べています

明治五年旧暦の廃止が決まって旧暦の日付は法的には明治五年一二月二日までしか存在していない。そのあとの旧暦については、なんの確たる暦法も決められておらず、漠然と、天保暦の閏のおき方だけを取り、あとはその時その時に天文台で発表する太陽・月の位置・時刻をかりて勝手に民間でくみだてているものが旧暦と称するものである。

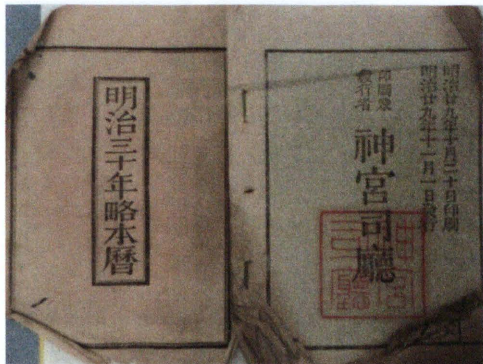
江戸時代の暦には、単に今日が何月何日かというだけでなく、たとえば「血忌日」という、「灸や針をしてはいけない、魚鳥を殺して血を出してはいけない」日が設定されていました。暦は、今日は何かを行うにあたって良い日か、悪い日かということを知るものでもあったのです。先にも述べましたが、明治政府は、こうした民間信仰を「迷信」でしかないと、なくそうとして、新暦にこのようなことは記してはいけないとしたのですが、多くの人の行動判断材料になっていたので、表紙に「暦」となくても、内容は陰暦等を記載した「おばけ暦」といわれるものも製作されるなどして、なくなることはありませんでした。

IV 展示品



綿抜研究室蔵 明治の略暦

- ・「略歴」とは？
- ・メモ



綿抜研究室蔵 明治三十年略本暦

- ・「神宮司廳」とは？
- ・メモ

一月大三十一日 舊暦											
十四日	十三日	十二日	十一日	十日	九日	八日	七日	六日	五日	四日	三日
土	金	水	火	水	火	水	火	水	火	水	火
満月後	満月	満月	満月	満月	満月	満月	満月	満月	満月	満月	満月
満月後	満月	満月	満月	満月	満月	満月	満月	満月	満月	満月	満月
満月後	満月	満月	満月	満月	満月	満月	満月	満月	満月	満月	満月
満月後	満月	満月	満月	満月	満月	満月	満月	満月	満月	満月	満月
満月後	満月	満月	満月	満月	満月	満月	満月	満月	満月	満月	満月
満月後	満月	満月	満月	満月	満月	満月	満月	満月	満月	満月	満月
満月後	満月	満月	満月	満月	満月	満月	満月	満月	満月	満月	満月
満月後	満月	満月	満月	満月	満月	満月	満月	満月	満月	満月	満月
満月後	満月	満月	満月	満月	満月	満月	満月	満月	満月	満月	満月

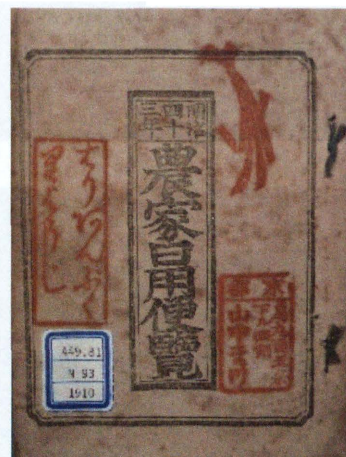
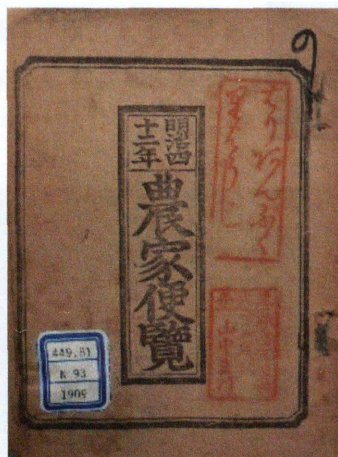
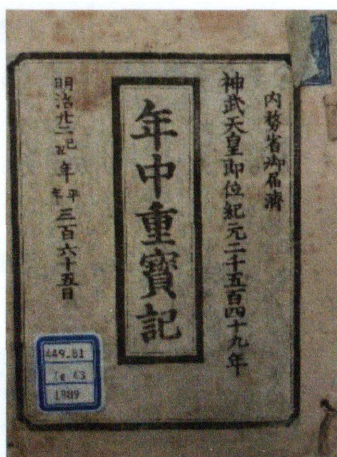
一月の暦

- ・日付の下に、
どのような情報が記されてますか？
- ・メモ

大正十五年 西暦一九二六年 丙寅 曆											
神武天皇即位紀元 二千五百八十六年	元始	紀元	春季皇靈祭	神武天皇例祭	明治天皇例祭	天長節	秋季皇靈祭	神嘗祭	天長節祝日	新嘗祭	日食
二月十一日	二月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日
二月十一日	二月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日
二月十一日	二月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日
二月十一日	二月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日
二月十一日	二月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日
二月十一日	二月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日
二月十一日	二月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日
二月十一日	二月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日
二月十一日	二月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日	三月十一日

昭和十五年											
四月	元始	第一	一月	一日	二日	三日	四日	五日	六日	七日	八日
三月	紀元	第一	二月	十一日	十二日	十三日	十四日	十五日	十六日	十七日	十八日
二月	春季皇靈祭	三月	二十一日	二十二日	二十三日	二十四日	二十五日	二十六日	二十七日	二十八日	二十九日
一月	神武天皇祭	四月	三日	四日	五日	六日	七日	八日	九日	十日	十一日
十二月	天長節	四月	十九日	二十日	二十一日	二十二日	二十三日	二十四日	二十五日	二十六日	二十七日
十一月	秋季皇靈祭	九月	十二日	十三日	十四日	十五日	十六日	十七日	十八日	十九日	二十日
十月	神嘗祭	十月	十七日	十八日	十九日	二十日	二十一日	二十二日	二十三日	二十四日	二十五日
九月	明治節	十一月	三日	四日	五日	六日	七日	八日	九日	十日	十一日
八月	新嘗祭	十一月	二十三日	二十四日	二十五日	二十六日	二十七日	二十八日	二十九日	三十日	三十一日
七月	大正天皇祭	十一月	十五日	十六日	十七日	十八日	十九日	二十日	二十一日	二十二日	二十三日

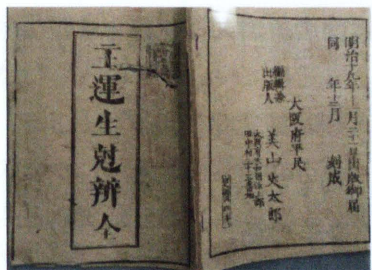
- ・大正十五年と昭和十五年の「暦本」の見返しと一丁めには、
どのような情報が記されてますか？どのような違いがありますか
- ・メモ



図書館情報学図書館蔵 おばけ暦
 左「年中重宝記」 明治 22 年
 中「農家便覧」 明治 42 年
 右「農家日用便覧」明治 43 年



綿抜研究室蔵 おばけ暦
「たばこ要略」 明治 21 年



綿抜研究室蔵 おばけ暦
「主運生剋 全」 明治 19 年

さまざまな暦

「いなり暦」は稲荷神社より、
「大三輪暦」は大神神社より発行された暦です
このように各地域の神社から暦が発行されました



綿抜研究室所蔵
「いなり暦」昭和 24 年



綿抜研究室所蔵
「大三輪曆」昭和30年

以下の2点は広告が入った曆です



綿抜研究室所蔵
「年中重宝」昭和11年



綿抜研究室所蔵
「家庭年宝」昭和11年

「年中重宝」は、高嶋易断編集したものです。高嶋易断は、現在も暦を編集しており、神社などでも売られています。右方に紐が通されています。「年中重宝」を柱などに掛けておいて、すぐ見られるようにしていたからです。

暦が入った石川県金沢の引札

今でも年末になるとカレンダーが配られたりします。明治にも、商店が広告をかねて、ごひきに配布しました。引札（ひきふだ）といい、めでたい絵柄が多いです。暦を入れておくのは、一年間、家のどこかに貼ってもらえるかもしれない、というねらいがありました。

次にあげるものは、昭和2年、朝日新聞社が配布した暦です。「秋」用の暦で、図柄も月見になっています。その後からあげる「引札」が、どのような変遷を経て、このようなものになったか、調べてください。



土屋商店・明治28年・熨斗アワビ・菊

熨斗アワビは

今でも暖簾によくみかけます

熨斗の下にある白い折り紙は

「蝶」です。

礼法で折り紙は

重要な学習事項です

この蝶は雄か雌か、

また、どのように折る

と思いますか



松本伊三郎 明治 22 年

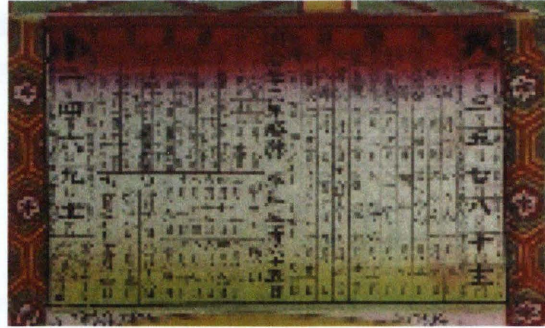
朝日・松竹梅・鶴。

左の人物は菅原道真です

なぜ道真とわかると思いますか

ちなみに

前田家領では、天神信仰が盛んでした



奥泉次助商店

明治 32 年

鳳凰・桐と金貨

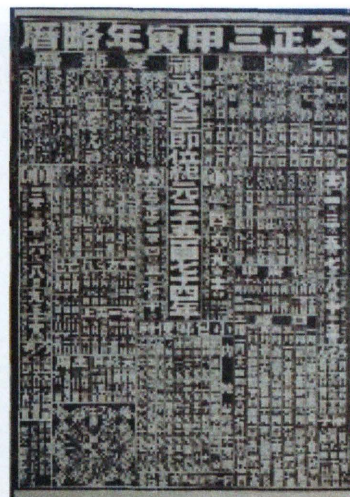
「鳳凰」と「桐」が
なぜ結びつくと
思いますか



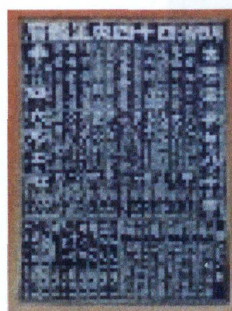
渡辺商店

大正 2 年

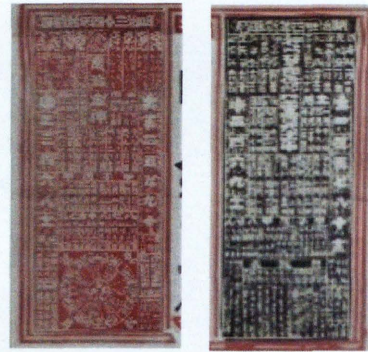
朝日・鶴・松



北川徳次郎
大正 3 年
浦島太郎・福助
浦島太郎が
なぜ
おめでたいと
思いますか

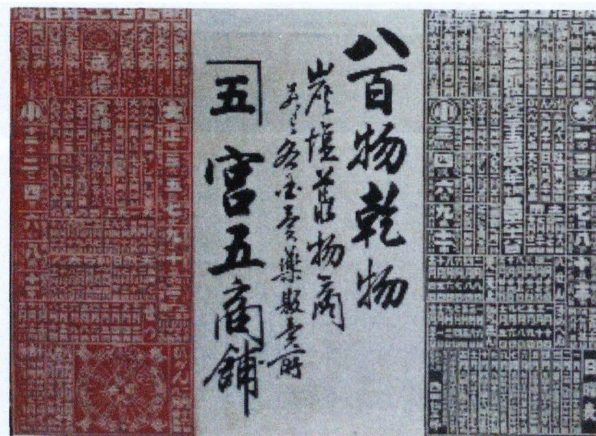


藤関安太郎
明治 44 年
恵比須・大黒
江戸時代から「～の木」というものがはやりましたが
この引札の木は何の木と思いますか



清江商店
明治 34 年
七福神

七福神のうち、店の中に居るのは？



宮五商舗

明治 41 年

恵比須・大黒の他、何がおめでたい図柄としますか



中屋伝七郎

明治 43 年

特にめでたい図柄はありませんが、この配色は目立ちます

2018 年度企画展示 暦を読む

2019 年 1 月 31 日

発行

筑波大学図書館情報メディア系

リサーチユニット「記憶資源」

筑波大学図書館情報学図書館

展示・図録作成 学生スタッフ

大山夏希、大柳香織、川島まゆ、

鈴木秀、富永星、中山隆一郎